

# 川のささやま



荒川クリーンエイド・不老川のゴミを集めみんなでゴミの種類を調査しました

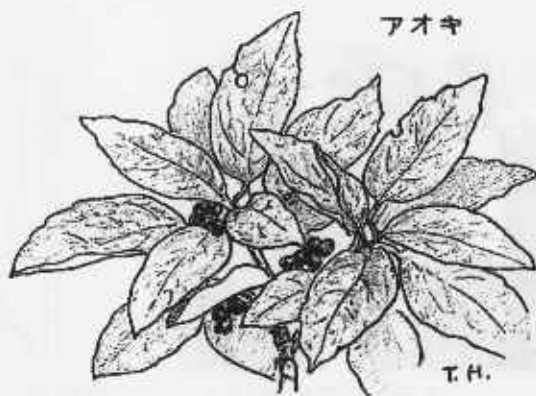
## 荒川クリーンエイド 2003 によせて

荒川クリーンエイドは流域を通した一斉清掃活動です。10月当会は狭山市の新入曾橋を会場にクリーンエイドを実施しました。川を歩き流れに入って集められたゴミは、煙草の吸殻やプラスチック片までひとつひとつ数えられます。どうしてそんな手間をかけるかという、例えば私たちの地域で捨てられたビニールが、下流のヨシ原に流れ着きヨシを枯らしているとしたら？そこを棲家とする生き物たちは、生きることができません。また、その生き物を捕食する鳥は数を減らしていくかもしれないのです。

自然は一方通行ではなく、また私たちのところに戻ってきます。ゴミを減らすことは、美観だけではなく、流域の生態系にとっても重要な保護策なのです。

流域で考え、ゴミの種類を知り、量を計り、その由来を探れば、真に有効な具体策が見えてきそうです。来年はもっと多くの人たちの参加を呼びかけていこうと考えています。

丸橋



アオキ (ミズキ科)

常緑低木 枝は太く緑色をおびる。夏、花後に結ぶ果実は秋に鮮やかに赤く熟れ、4月頃まで残る。ヒヨドリの大好物。

入曽の線路に近い不老川沿いに、小ぶりで自然木化したものが、きれいな実をつけていた。

知って守って楽しんで

# 荒川クリーンエイド in 不老川

## 不老川にカワセミ！！



不老川流域川づくり市民の会は、10月19日に行われた荒川クリーンエイドに初めて参加しました。当日は2コースに別れ、Aグループは狭山市入間公民館から新入曾橋まで、Bグループは平野の森を出発して東山王橋までゴミを拾いながら歩きました。Bグループには「平野の森こどもエコクラブ」の子どもたちも参加して、バッタやカナヘビを見つけたり、ゴミを拾ったりしながら頑張って歩き通しました。水面から飛び立ったカルガモには、みんなびっくり。

ゴミは、大きな階段のような布団カゴに多く金網に引っかかったペットボトルや缶、取りづらい布やビニール類を拾い集めました。



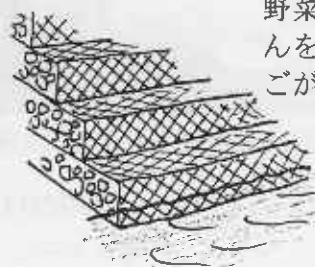
カルガモが飛んだヨ

新入曾橋から今日のお楽しみである芋掘りとすいとんが待っている畑に向かいました。土の感触を楽しみながらさつまいもを掘り、秋の収穫を喜びました。そしてホクホクの蒸かし芋と野菜いっぱいすいとんを食べました。すいとんを初めて食べる子どもたちも多く、「おだんごが入っているよ」と喜んでいました。

流域の市民みんなが関心を持ち、行動することできっと「ふるさとの川」になると思います。大人も子どもも楽しんだ一日でした。(G.N.)



金網にからまったゴミを拾う



布団カゴ護岸

当日は晴天に恵まれ、青空を見上げるとオオタカが旋回し、目の前をブルーに輝く小鳥が真つすぐに飛んでいきました。思わず「カワセミカワセミ」と叫んでしまいました。これは小魚が棲んでいる証ではないでしょうか。

A・Bグループとも新入曾橋に集合してゴミの分別と集計・水質調査を行いました。パックテストでpH（水素イオン濃度）・亜硝酸体窒素・アンモニウム体窒素・COD（化学的酸素要求量）を調べ、クリーンメジャーで透視度を測りました。子どもたちは実験をしているかのように興味を示し、パックテストの反応時間を待っていました。川の水はきれいに見えましたが、結果は悪い数値でびっくりしました。また観察では臭い・色・水草・生き物・湧水等の有無を記録しました。



パックテストの結果は？



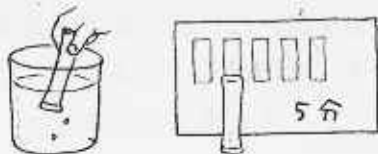
透視度計でに  
ごりを調べる

### COD(化学的酸素要求量)

水の「汚れ」を表す代表的な指標。水の中に溶けている有機物の量を示す指標で、数値が大きいほどたくさんの有機物がとけていること、すなわち水が汚れていることを示す。

### パックテスト

試薬が入ったチューブに調べたい水を入れ、軽く振り混ぜて数分置く。標準色と比べ、一番近い色の値がその水の測定値になる。



### 埼玉県が10年後の不老川のあるべき姿（案）を発表

去る10月30日に行なわれた“不老川清流ルネッサンスⅡ第2回地域協議会”に標記案（下の表）が提案されたのでその概要を記します。

案には非常に素晴らしい目標が掲げられている。“川底が見え、不快な臭いも無く、川遊びや魚捕りを楽しむ人が見られる川に”ということで、汚い川の代名詞ともなった不老川を、子供たちも遊べる自然豊かな川にしようとの目標です。

そのため、水質目標をBOD 8mg/lにして、下流部では水深を最低10cmとしている。川越市滝ノ下下水処理場から処理水（水質が問題であるが）を狭山市入曽まで持ってきて放流しているのが下流の水深は確保可能としているが、上流は水量確保の対策が困難との理由で現状維持としている。しかしながら、目標とする魚類や昆虫、植物などは上流と下流でほとんど違いはない。目標植生の中にバイカモをいれているが、埼玉県レッドデータ

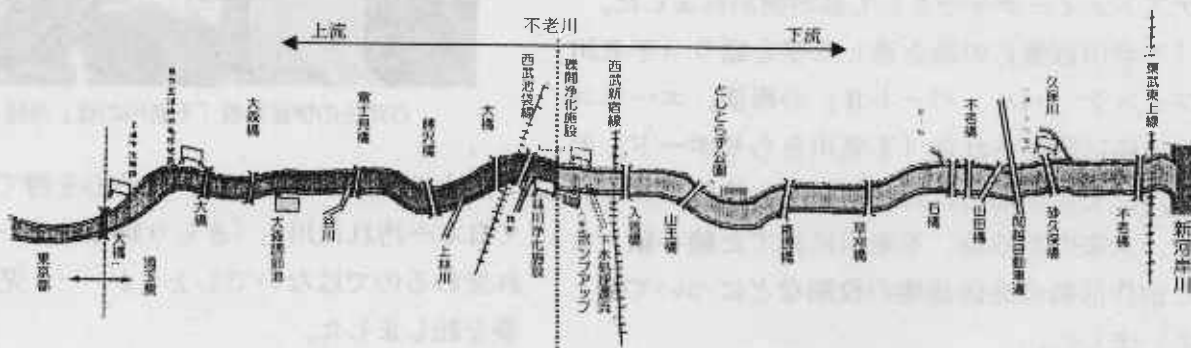
ブックでは絶滅種になっており、検討すべきであろう。

夏には大森調節池で生まれたメダカやモツゴ（クチボソ）が泳ぐが、洪水になると一気に新河岸川まで流されてしまう。冬には湧水が涸れ水量の減少とともに汚れた水になり、生きものはいない都市下水路と化してしまう。また、新河岸川から遡上してくる魚たちは、多くの落差工（一種のダムで高さ2~3m程度）に阻まれてしまう。

これから目標の実現に向けて、どのような施策を行なっていくか検討を重ね、来年3月には成案とすることになっている。下水道の普及による水質改善や、湧水の復活等を含めた水量の確保、魚道や淵など川の構造の問題や流域の緑の確保等、さまざまなクリアすべき課題があり、当会としても積極的に提案するとともに、協力していきたいと考えている。皆さんからもご御意見等あればご連絡下さい。お待ちしております。（相馬）

埼玉県発表の目標とする水環境像

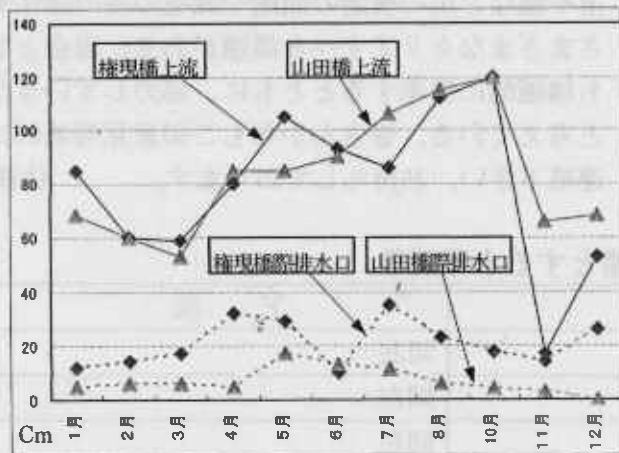
目 標	上 流	下 流	
快適性	透明度	川底が見える	同左
	臭気	不快な臭いがない	同左
	ゴミ	ゴミが見られない	同左
生物生息 状況	魚類	ギンブナ、モツゴ、メダカ等	オイカワ、ナマズ、ウグイ等
	底性動物	テナガエビ、タガメ等	テナガエビ、オニヤンマの幼虫等
	植生	マコモ、ミゾソバ、バイカモ等	マコモ、ヨシ、バイカモ等
	その他	周辺に多様な昆虫が見られる	同左
親水性	親水利用	水辺の散策、川遊び、虫取り	同左
水質	BOD75%	8mg/L以下、最低10g以上	同左
	DO	5mg/L以上、最低3以上	同左
	透明度	川底が見える	同左
水深		現状維持	最低10cm以上



## 不老川の水質調査・汚水流入の1年間

2002年11月、権現橋および山田橋際の排水口から大量の汚水が流れ込んでいることを発見し、それらの汚水による不老川への影響を知る為、2003年1月から毎月汚水調査を開始。その様子は本誌を通じて皆様にお伝えして来ました。その後も継続し、1年間それぞれの排水口上流及び下流域を含め透視度、COD パックテスト、亜硝酸、電気伝導度、合成界面活性剤などの数値を観察してきました。それらの中でCOD値は、それぞれの橋の上流域では10 mg/l以下であるにもかかわらず、山田橋際排水口からの数値が極端に高く、7割は100 mg/lを超えていました。また、権現橋

2003年1年間の透視度グラフ



際排水口では5割が50 mg/lに達しており、いかに汚い水であるかが分かります。

透視度グラフから、不老川の水質の現状と特質について下記の通り考察しました。

- 1) 今年は雨が多く本流域においては透視度がかなり良く、特に夏から秋にかけては100cmを超える数値が観測された。すなわち、川底の小石が100cmの深さまではつきり確認できた程である。
- 2) しかしながら、11月から3月の数値は夏場に比べて大変悪い。
- 3) 橋の上流と排水口の水質にかなりの差があり、いかに排水口からの水が本流を汚し、不老川全体の水質に影響しているかが伺える。山田橋排水口付近の透視度は、特に悪く10月以降では数ヶ月にわたり6cm以下が観測された。
- 4) このように不老川に何ヶ所かあるこれらの排水口の水質を改善することが重要なポイントである事がわかる。
- 5) 特に山田橋際の排水口からの汚水の影響で、その下流域は全面に水カビが発生して、大変汚い川になっている事は憂慮すべき状況である。これらの問題については、現在関係当局に対策を要請し、検討して頂いているところです。 小川(泰)

## きらり輝け不老川

4月から、川越市の福原小学校の総合学習「きらり輝け不老川パートⅢ」が始まりました。

11月に6年生担任の虎井享太・小野幸二・志賀早苗先生方の指導の元に、生徒98名が5~6名のグループを作り、植物・生き物・歴史・石・水質・ゴミ・水量・地理等の中間発表があり、ゲストティーチャーとして私が招かれました。

「不老川百景」の絵を通した夢を語り「不老川フェスティバル パートⅡ」の再演。エースコック脇に設置された「不老川きらりボード」の活用、そこに貼られた生徒たちの浄化ポスターや、未来のある絵、不老川に宛てた絵手紙、また創作活動の発信基地の役割などについて話しあいました。

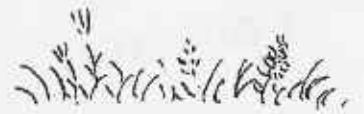


6年生の学習発表「不老川の昔」を語る

郷土の自然に対する思いやる心を持てば、かつて日本一汚れた川も「きらり輝く日本一」に生まれ変わるのではないのでしょうか……と児童たちに夢を託しました。 高木宏尚

# 草ぐさにやさしい路づくり

## 山王塚市民緑地の改良作業始まる



ふわふわとした軟らかい土壌をまもり、野草が一面に生えそろうには、人が自由に歩き回れないように園路の両側に何か柵を作ろうと、勤労感謝の日の午前中路づくり作業をした。会員6名参加。

柵の材料は、すぐ近くの竹林を整備させてもらって、そこからでる竹を利用しようということに。竹林の入り口周辺の混んでいる所を間引き、枯れ竹の撤去・整理で、数本の竹を確保して市民緑地内へ。枯れ木・枯れ枝は、強風や豪雨の時に倒れたり落下したりする可能性があるから、危険防止のためにノコギリで伐り、自然風な人止め柵として利用。竹は150cm程度の長さに切って、鋳物でできている竹割りで五つに割る。裏の節片をナタで取り、側面はささくれているので怪我させないようにとの配慮で削り丸みをつける。片端を地面に突き刺して他方をもって円弧を作るように曲げながら地面に突き刺す。その円弧の竹を少しダブらせながら連続して作って行く。公園の芝生に入らないようにしているのを見た経験があると思うが、ななこ垣という。

約30mの園路の柵ができた。しかし、雑木林の中ではななこ垣の連続は不自然だなあと意見がでる。まだ一部の柵しかできていないが、どんな風に修正するかは協議の必要がある。

私有地の雑木林をある期間、市で借り受けて市民に開放するという制度でつくられた市民緑地は、どんどん少なくなっていく雑木林を後世に残していくためには良いことだといえる。

しかし、自由に市民が出入りできるようになればいろいろな問題が生じてくる。野草の盗掘は言うにおよばずだが、気が付かずに起きている問題がある。利用されすぎて、地面が固くなりすぎる。昔の歌謡曲、お座敷小唄の歌詞に「富士の高嶺に降る雪も京都先斗町に降る雪も雪に変わりはあるじゃなし溶けて流れりゃ皆同じ」とあったが、同じではなく、富士山の雪や雨はほとんどが地下浸透するが先斗町の雪や雨は雨水枡・下水管を通過して川へ行くので地下への浸透がゼロに近い。地面が固くなれば草も生えにくくなり、虫達もいなくなる。

せっかくの大事なみどり。路づくりは、土壌中の微生物を含めた生きものや地表面の草ぐさを豊かにしようとする改良作業です。(高松)



ななこ垣



枯れ枝の柵

## こかわ展 を 終えて

1年がかりで「こかわ展」を開催、狭山市内11ヶ所の公民館を巡回することができました。小冊子「こかわを訪ねて」ともども、市内外の人々になかなか好評でした。このままでは皆の記憶からもなくなってしまうのでは？という危惧があつての出発だったので、まずこかわの存在をアピールできたことがなによりでした。

今は、少しでも残すためにどうするかという段階にきています。実状をさらに調べながら、地元の人々と可能な方策を探っていくわけですが、元こかわのほりにある山王塚市民緑地の整備もその第一歩の活動につながると思います。

幸い、まちづくり研究会の「市への提言」の中でこかわの復元が取り上げられました。

入間地区 公園・緑地・歩行者ネットワークの 整備方針

### ⑤河川等

こかわ (市民の取り組み)

こかわの歴史を学びます

こかわの復元と活用を図ります

こかわの清掃活動を行ないます

(行政の取り組み)

こかわの復元と活用を図ります

こかわの境界を明確にします

行政と一緒にあって地域に拡がりある動きができそうです。(田上)

追記：1月19日～2月2日 富士見集会所で追加のこかわ展を開催します。

# 川のはなし 不老川のはなし

## その1 モクズガニ発見

今年、不老川では思いがけない事が色々あった。埼玉県の調査で川越市ではアユが、入間市ではカワムツとオイカワが確認された。アユとオイカワは、ほぼ同じ水質に棲む魚であり入間市にアユがいても不思議ではない。

では何故いないのだろうか。先日NHKテレビで多摩川のアユが魚道の改良によって大量に遡るようになったと放映されたが、不老川の場合、東上線の上流に落差工という一種のダムがあり、高さ2m以上もあるのでアユはそこを飛び越えられなかったのである。カワムツやオイカワは元気がいいので遡ってきたのだろうか、専門家によると誰かが放流したのでは、との話であった。

ところが10月に入間市で小学生がモクズガニを捕まえた。おそらく30数年ぶりと思われる。

モクズガニは甲羅が10cmにもなる川蟹でアユと同じく東京湾を往復しており、10本のハサミと

アシで落差工をよじ登ってきたのであろう。

しかし生き物たちで賑やかだった不老川も、冬になれば湧水が涸れ、ほぼ家庭排水だけになるので、かつての汚い不老川になり、生き物のいない死んだ川に逆戻りしてしまうのです。(相馬)



10月入間市で小学5年生(刈屋勇人君)がモクズガニを発見。

川に放つとまた元気に帰っていった。

### 他の川を見学に行こう!

タマちゃんでおなじみの神奈川県の下川(下川)の「川づくり」を見学して、今後の不老川の川づくりに役立てようと考えています。

平成16年3月下旬頃の予定です

お気軽にご参加ください

### 雨水利用してみませんか

水の再生が大事なことといわれている昨今です。身近にある雨水を貯めて、活用しませんか。

雨どいに取り付ける簡単な方法があります。取り付け費用の(約3000円)1/2程度を当会が負担します。詳細は高松まで

TEL 04-2948-5815

### 会員募集しています

定例会：第3土曜日13:30~

年会費：1,000円 詳細は下記世話人まで

入間市：相馬04-2965-1741

狭山市：丸橋04-2959-3831

所沢市：高松04-2948-5815

川越市：高木0492-43-9828

## 流域情報

### 新河岸川水系 身近な川の一斉調査

11月16日 朝霞市産文センターで開催。

調査は今年6月に流域43団体201地点で実施した。小学校1校、中学校5校と子ども達の参加も増えてきた。今年は水量が多く、例年に比べどの川も水質が良かった。

連絡調査マップは、新所沢の「新河岸川流域川づくり会事務所」で入手可能(無料)

TEL 04-2994-3212 (月水金は午後 土日1日)

### さやま環境市民ネットワーク発足

狭山市有志の呼びかけのもと、市民、事業者、市民団体、行政がパートナーシップを組み、環境問題についての情報提供や調整を行いながら望ましい環境像の実現を図ることを目的として設立されたもので、当会も団体会員として加入した。

**編集後記** 2003年がもうすぐ終わろうとしています。世の中物騒なことが多くありました。自然も、また異常気象でした。2004年が明るい希望に満ちた年にしたいものですね。

この会報は、(財)河川環境管理財団の助成を受けて作成されました。